実施の目的と条件

標準失語症検査補助テスト｜評価の前後をつなぐ

氏名・ID：_____ 実施日：_____

評価者：_____ 使用版：_____
開始日：_____ 終了日：_____

01　何を明らかにしたいか

生活で困る場面・本人の希望	
SLTAの所見・追加評価の問い	
実施項目／省略項目と理由	

02　結果に影響する条件

聞こえ・見え方・姿勢	
応答方法・運動面の制約	
疲労・休憩・中断・受検歴	

03　構音・応答・時間と金額

発声発語器官・構音	動き・声・音・実際の発話：
はい – いいえ応答	____ / 4 応答方法・返答の偏り：
時間と金額の計算	____ / 7 数字・単位・問い・計算・表出：

教示・提示順・再提示・ヒント・中止規則は正規マニュアルに従います。未実施は0点に置き換えず、標準条件からの変更を明記します。

呼称の範囲と反応

80語と、SLTA20語を含む100語を区別する

氏名・ID：_____ 実施日：_____

04　正規用紙から結果を転記

集計範囲	正答数／固定分母	未実施・中止・備考
高頻度語	____ / 55	
低頻度語	____ / 25	
SLTA-STの2群合計	____ / 80	
SLTA呼称（別枠）	____ / 20	
SLTA20語を含む合計	____ / 100	

公開プロフィールの正答数は段階5・6の個数の合計です。段階値そのものは足しません。実施範囲の異なる割合を、同じ指標として比較しないようにします。

05　初発反応と、その後の変化

項目番号	最初の発話・反応	自己修正／規定ヒント後

06　次に確かめること

沈黙・意味や音の誤り・用途の説明・反応時間から、追加評価や支援の仮説を記入。

談話と長文理解

得点に加えて、伝わった情報・抜けた情報を残す

氏名・ID：_____ 実施日：_____

07　まんがの説明

課題	段階・主題（転記）	発話・抜け・つながり・修正
1		
2		
3		
4		

検査者が補った内容と、本人が自分で説明した内容を分けます。絵の見落としや注意の変化も併記します。

08　長文の理解

課題	正答数	誤反応・実施条件
物語1	____ / 10	
物語2	____ / 10	
物語3	____ / 10	
ニュース	____ / 6	

09　解釈と、追加確認の問い

聞き取り・問いの理解	
情報の保持・関係の理解	
回答の表出・他の影響	

低成績だけで原因を決めません。追加の文字・要約などを用いた観察は、標準条件の得点と区別します。

生活に組み込む支援と再評価

標準検査後の追加観察・チームへの共有

氏名・ID：_____ 実施日：_____

10　支援を試す計画

具体的な生活目標	
試す支援・変更する条件	
相手・場面・確認する日	

11　伝わったことと、実行を分ける

日付・機会	伝達の正確さ	必要な援助	当日の実行

12　再評価でそろえる条件

項目・範囲・分母	
教示・ヒント・疲労の差	
得点・反応・生活の変化	

13　カルテ記載例（架空）

長文理解で情報の取り違えを認めた。検査後の予定確認では、日付・時刻・場所を一つずつ文字で示すと、該当箇所を指し示せた。予定連絡には文字を併用し、次回は別の予定で、伝達の正確さ・援助・当日の実行を確認する。

参照：日本高次脳機能学会 SLTA-ST案内・プロフィール説明書 Ver.1.0。得点・所見は使用版の正規用紙から転記してください。